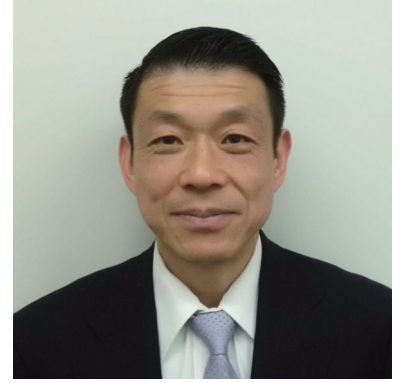


## 特別シンポジウムからの 熱いメッセージ

### A Passionate Message from IEICE Special Symposium



企画理事 保田佳之

国道16号線を走ると日本が分かる、という話があります。16号線沿線には日本の経済活動を読み解くための適切なサンプリングポイントとなる都市が連なっており、走っている車の数や渋滞の状況はもちろんのこと、沿線のショップ、レストラン等の数や種類の推移を観測していくことで、経済の動向が読み取れるというものです。言われてみれば私自身、田舎に帰省するときのことを思い出すと、バブルの時代ではファミリーレストランやディスカウントストアなどが相次ぎ出店し、仲間たちと連れ立って出かけたものでした。それらの店が、いつの間にか工務店になりパチンコ屋になり、今は葬儀社が多くなっていることに気付かされます。時代の傾向が、まさに反映されていると感じます。

毎年10月に開催される展示会CEATECに行くたびに、私は大小全てのブースを回ることにはしていますが、同じようにICT業界のトレンドの推移を感じます。本年も、自動車やロボットの関連に始まり、高精細映像、エコロジー等に関連するものが増えてきたように感じました。本会で取り上げている研究テーマが、商用化されて市場に出ているトレンドを改めて認識する場として大変勉強になります。

上記の関係もあり、本会では、CEATECの場を利用して特別シンポジウムを毎年開催しております。本年は国際光年ということもあり、「ICTの未来と光」と題して光に関連する様々な切り口でのキーパーソンにお集まり頂き、熱心に御講演、御討論頂きました。御講演の内容は、我が国のICT産業の大きな方向性から始まり、光技術を用いることにより野球ボール大のスーパーコンピュータが将来実現可能であるといった大きな夢を感じさせるお話もありました。光デバイスやネットワーク技術はもちろんのこと、モバイルとの関係やスーパーハイビジョンの展望、そして植物工場ビジネスへの展開など、多方面にわたって興味深い御講演とパネルディスカッションがなされました。誌面の関係で全てを御紹介できないのが残念ですが、シンポジウムの締めくくりとして、パネリストの皆様のメッセージをまとめたものを御紹介したいと思います。

「今現在、ICTがこれほどまでに発展し、大変利便性の高い時代になりました。その過程を、自分たちは多少なりとも支えてきたという認識ではあります。かつて、それが何の役に立つのか考えるよりも、まずそれを実現せよ、という風潮の中で仕事をしてきました。ところがその時代は、文献検索など一つ例にとってもICT環境という意味では大変に不便な時代でもありました。現在、産業界を取り囲む閉塞感はあるものの、この点では今の若い研究者の皆様は大変恵まれていると言えましょう。情報は当然手に入るものであり、それをどう使いこなすかが重要となっている時代を生きる若手研究者の皆様に、大いにエールを送りたい。」

以上が、パネリストの皆様から特に若手会員の皆様へのメッセージであり、私も大変共感致しました。大変内容の深い熱の入ったシンポジウムであり、熱心に御討論頂いた御講演者の皆様並びに長時間聴講下さった皆様方に、この場を借りまして改めて御礼申し上げます。